

大津卓滋 2018年ニューヨーク国連本部 SDGs 推進会議スピーチ全文

ただいまご紹介を受けました国連の友アジア—パシフィック理事、大津卓滋でございます。
まず本日のカンファレンス開催に多大なるご尽力を頂いた、国連パートナーシップ事務局に感謝申し上げます。

チャウドリー国連大使と最初にお会いしたのは、8年前になります。その時、私は世界に通用する高い技術を有する企業の法律顧問を行っていることをお話すると、大使より「そのような日本の最先端技術力で、世界に対する貢献活動ができないか」と言われました。
あれから8年の歳月が過ぎましたが、本日、ようやくこの国連ニューヨーク本部で、日本の技術でSDGsに貢献するプログラムを発表できますことは、感慨深いものでございます。

1. さて、私は1980年より38年間、弁護士としてあらゆる紛争解決を行ってきました。
弁護士がその業務を行うときに従う絶対的かつ唯一の判断基準は、「クライアントにとって、それがプラスかマイナスか」という事です。

弁護士になった初めの頃は、クライアントが、少しでも多くのお金や財産を得ることがプラスであると考えてやってきました。しかし、ここ10年位は、クライアントの取引関係、人間関係、家族関係、更には生きてきた歴史、価値観等を総合的に判断したとき、お金や財産を棄てる方がクライアントにとってプラスであるという場合があると考える様になりました。

現にその様な意見を言い、クライアントも納得してくれた実例もあります。要は、人又は会社にとって大切なものは、目先のお金や財産ではなく、関係する人々や会社等との信頼関係と評価だということだと思えます。

どんなに組織やシステムが巨大化しようと、この世界が人によって成り立っている以上、人と人との関係が根本的に大切なのだと思えます。正しくヒューマンリレーションの進化が世界を良い方向へ変えてゆくのだと思えます。

私が国連の友アジア - パシフィックの理事として国連の活動に関わってきたのは、弁護士業務とその根本において共通点があったからです。

2. 私のクライアントの大半は、中小企業の経営者です。

経済産業省の調査、2017年版中小企業白書によると、資本金1,000万以上1億円未満の企業である中小企業は、日本の企業の99.7%を占めており、その従業員数は3,361万人にのぼり、日本の経済を支えているのは中小企業といっても過言ではありません。

こうした中小企業が抱えている大きな問題の一つとして、後継者不足があります。ご存知のように、日本は歴史上類を見ない少子高齢化を迎えており、後継者が決まっていない中小企業は127万社あるとされています。後継者不足で休業・廃業や解散する企業の5割は経常損益が黒字であり、また世界に誇れる技術を有しています。廃業の増加によって2025年までの累計で、

約 650 万人の雇用と約 22 兆円の GDP が失われる可能性があります。更に、本質的には中小企業が廃業すると、そこにあった技術が消滅してしまいます。人の育成と技術の継承は緊急の課題なのです。

日本の今日の繁栄は、こうした中小企業が持つ技術力とたゆまぬ探求心、最後までやり遂げるという強い意志がもたらしたものと言っても過言ではありません。

時代を 165 年遡り、江戸時代末期のお話をさせていただきます。1853 年に黒船が来て、その 3 年後には日本は自力で黒船を造ることに成功しました。もちろん蒸気機関も自力で造っています。驚くべきことは、この船を造ったのは、四国の宇和島藩(愛媛県)という小さな地域の嘉蔵(かぞう)という提灯屋の職人でした。嘉蔵は貧乏でうだつが上がらない職人でしたが、モノを作るに必要な好奇心と決して諦めない強い心を持っていました。

嘉蔵のような技術者が、その技術を次世代に残し、世界に誇れるものを作り出してきました。技術力の本質は、その結果である製品ではなく、その製品を創った人間の、困難な課題にあきらめることなく創意工夫を振り絞って立ち向かい続ける精神回路にあると思います。すなわち、技術力の承継、発展は、人の精神力の承継、発展ということだと思います。

3. 本日、私は、SDGs プログラムを具体的に実践してゆくキーとなる二つの日本の中小企業を紹介します。

一つ目の会社は、私の後に発言する(株)テクニカンです。(株)テクニカンは、その開発にかかる液体凍結機により、現在日本において大きな注目を集めています。詳しいことは、後程テクニカンの社長本人からお話があります。私は、テクニカンの凍結機が日本の農業・漁業を活性化する大きな武器となると共に、血液及び移植用臓器の保存という医療分野への可能性を有したものだと考えております。

二社目はマイクロカット(株)です。本日は社長が業務の都合上どうしても本会議に出席することが出来ないとのことで、私が代わりに紹介します。

マイクロカット(株)は、日本国鹿児島県にある金属の精密加工を行っている会社です。高い技術力を有しているのも、最近半導体を使う全ての器材が必要とするパーツを創り出すことに成功しました。これは、日本の大企業はもとより、世界のどの企業も創ることが出来なかったものです。現在マイクロカット(株)は、このパーツの世界市場をほとんど独占しています。

この様に高度の技術力を有するマイクロカット(株)は、現在自力で技術者養成所を創っています。この養成所の最も注目すべき点は、日本の同業者及び、海外の同業者に対しドアが開かれており、且つこの養成所においてマイクロカット(株)は、自社の技術ノウハウを開示するという点です。

マイクロカット(株)の高木治邦社長は、「我社の技術力を企業秘密にして、他に開示せず、そこで利益追求を行えば、我社の技術力はそこで止まってしまふ。他社にも開放することで、マイクロカット社はより高い技術レベルへ向かうことができる。」と話しています。

資本主義経済といえども、それを担っているのは人間である以上、利益追求がその本質ではなく、担っている人間の精神構造こそが本質であるということではないでしょうか。

4. 本日のカンファレンスのテーマは「SDGs 達成に向けて、私たちは何ができるのか？」を企業・自治体の立場で具体的な行動の発表をし、意見を交換する場であると存じます。

私は、国際社会が 2030 年までに貧困を撲滅し、持続可能な社会を実現するための 17 の目標（ゴール）を達成するに必要なのは「未来に向かってどのような人と人との関係を創ってゆくべきなのか？」ということではないかと考えています。特に、女性にも男性と平等な権利と機会を与え、社会参加を促進しなければなりません。これを実現するのも人と人との関係だと思えます。貧困・紛争の解決、環境汚染や気候変動、産業と技術革新、使う責任、作る責任といった様々な目標を打ち出し、行動し、推進することを可能にするのも人と人との関係だと思えます。本日モデレーターを務めていただいているチャウドリー大使をはじめ、国連では、「グローバル・シチズンシップ（地球市民意識）」の重要性を説かれています。

誰もが地球社会の一員であり、国境や民族、性別を越えて、互いに手を握りあう市民だという意識こそ、多様性を尊重する思いやりの精神でもあり、次世代にいい社会を残していこうと考える土壌を生み出すものだと思います。

では、私は何をコミットしてゆくべきなのか？

私ができることは、技術とそれを生み出す人の育成をサポートすることです。またそれらをシェアする人と人との関係を作り出すことです。日本の技術とそれを生み出す強い精神力を、意欲ある世界中の若者に伝え、その技術を母国に持ち帰り、母国の発展に寄与する人材作りのパートナーシップス構築、また日本の技術を世界に広げるネットワーク作りこそ、私のこれからの人生をかけて行っていくべきものだと考えております。

弁護士活動の中で、厳しい経営状況に追い込まれたクライアントが、技術革新で再び成功をおさめた姿も多く見ております。そうした経営者たちは、技術で社会に貢献したいと考えています。2030 年まで、そして 2030 年を超えても大切なのは、人間力であり、人間力を形成・育成する土台作りであると考え、技術力で SDGs を推進するという志を有する仲間たちと、世界に通用する技術と技術者養成のネットワークを構築し、グローバル・シチズンシップの考えを広めて参りたいと存じます。

本日は、貴重な機会を頂きましたことに、あらためて感謝申し上げますと共に、本日まで参加の皆さまのご健康とご多幸をお祈りするとともに、SDGS 推進の為の行動が、大きなうねりとなるように、微力ながら全力を尽くしてゆくという決意を表明し、私のスピーチを終えたいと思えます。

ありがとうございました。